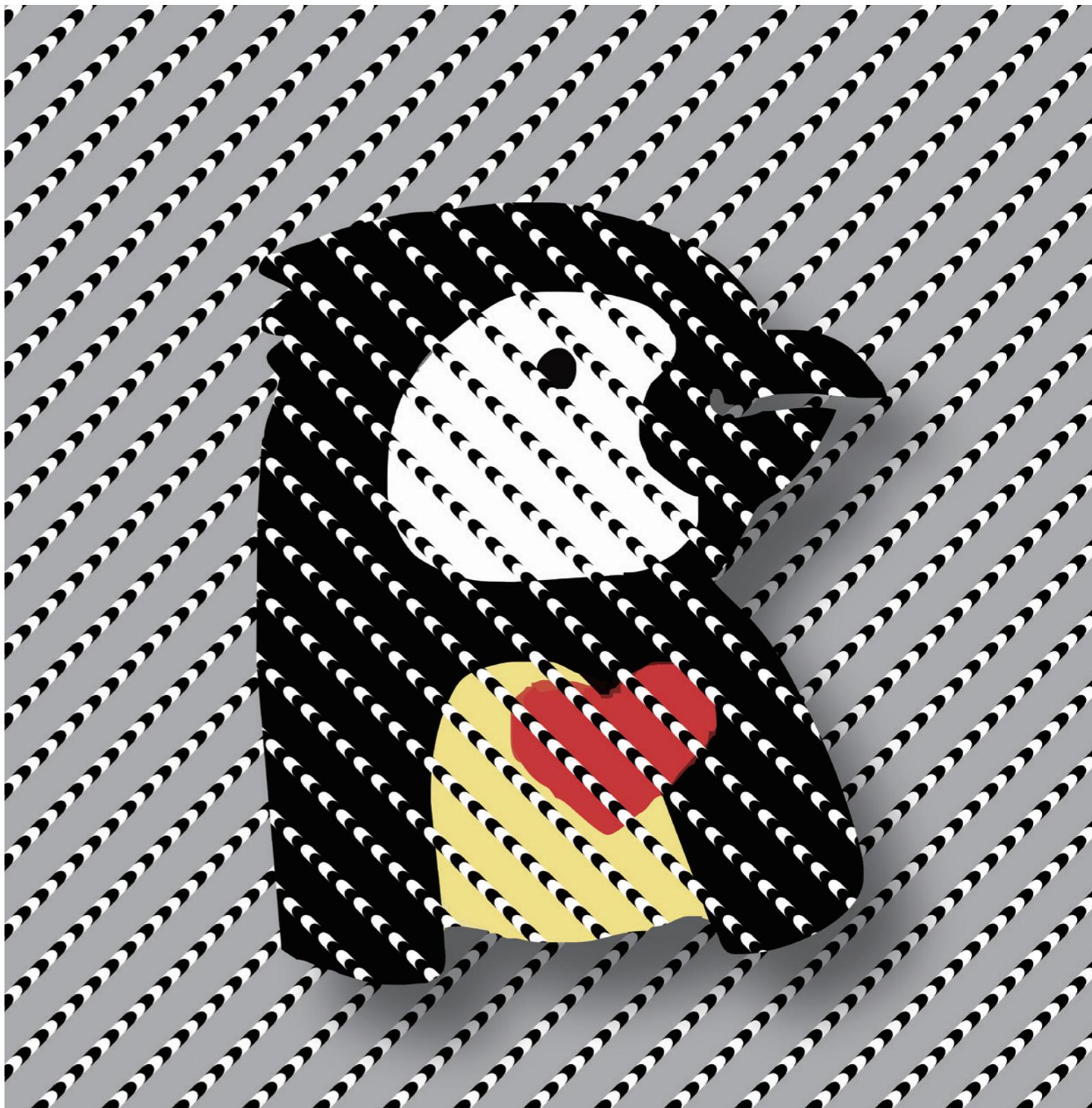


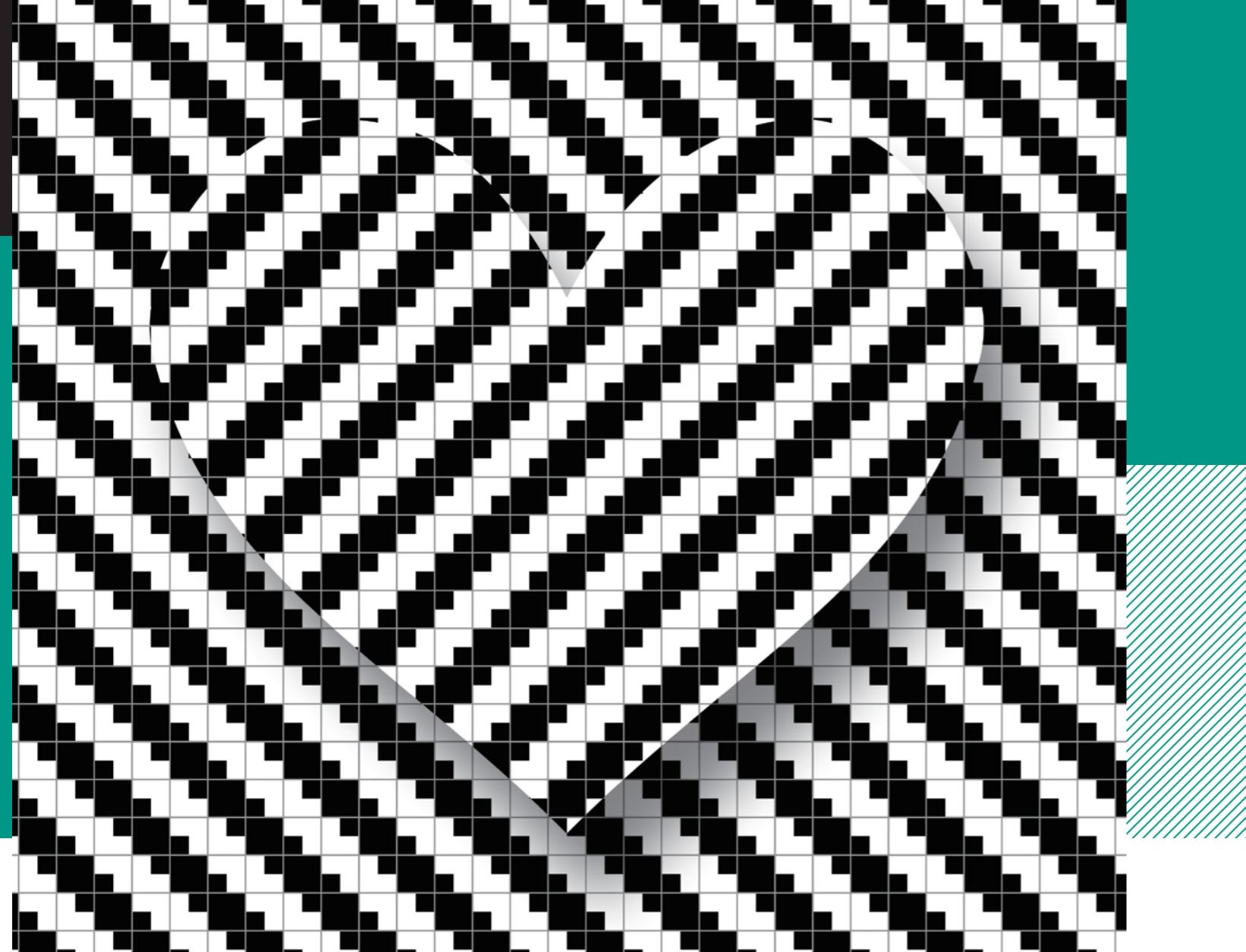
「フローティングリッキー」
リッキー(総合心理学部マスコットキャラクター)が動いて見える。
白と黒の縞模様の線分を直交させると動いて見える錯視
(シマシマガクガク錯視)を適用している。
リッキーが浮いて見えるのは、影による奥行き効果による。
Copyright Akiyoshi Kitaoka 2025
※錯視は心理学における研究分野の一つです。



総合心理学部

College of Comprehensive Psychology





総合心理学部

■ 総合心理学科



STUDENT'S VOICE /

多角的な視点が養われる実践的な授業が魅力。公認心理師と臨床心理士の資格取得を目指す。

小学生の頃から心理学に興味を持ち、大学で学びたいと考えていました。総合心理学部には多くの先生方が在籍し、カリキュラムや施設も充実しているため、心理学を学ぶにはとても適した環境だと感じています。専門資格のためのプログラムが細かく整備されており、実践的な授業が行われていたりする点も魅力的です。1回生では、質問紙調査や実験を通して心理学を学び、2回生では、インタビュー法を用いてより深くアプローチしました。インタビュー法は、相手が話す内容だけでなく、表情やテンポ、声のトーンなどから、さまざまな情報を取り出せる点が興味深いです。

心理学を学ぶようになり、多角的な視点が養われていると実感しています。同じ状況や出来事でも感じ方は人によって異なります。どうして感じ方が異なるのか、何がそうさせているのか、これまでの経験や育ってきた環境など、あらゆる方面に考えを巡らせて、相手の人物像や考え方を理解しようとする姿勢が身につきました。また、自分が経験したことに対してもより多様な捉え方ができるようになり、豊かな人生や心の余裕につながっていると感じます。一見マイナスに思える出来事も、「こういう良い部分もあったな」「こういう経験は今までにはなかったな」と、前向きに考えることができます。

将来は、産業分野における心理支援を行いたいと考えています。仕事に対するストレスを抱えている人に向けて、どのような経緯で今の状況になっているのか、どのような支援方法が適しているのかを考え、働きやすい環境をつくり、ポジティブに過ごせるようにサポートしていきたいです。目標は、大学院に進学して公認心理師と臨床心理士の資格を取得することです。そのため、現在はさらに知識を深めるべく心理学検定の勉強を進めています。



阿部 洋さん
総合心理学部 総合心理学科 3回生
新潟県立新潟高校出身

取得学位	学士(心理学)
アドミッション・ポリシー	<p>総合心理学部では、本学部の人材育成目的と教育目標に共感し、本学部で学ぼうとする強い意志を持った学生を求めます。このため、入学時点において以下の学力、関心などを有することを求めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 高等学校などの教育によって修得した基礎的な学力を有していること 特に、国語と外国語に関する知識、理解力や表現力を有していること 数学、社会、理科などの分野における知識や思考力を有していること 人間の心と行動、現代における人間の在り方についての問題に関心を有していること

4年間の学び

総合心理学基礎科目で心理学および隣接領域を幅広く学んだ後に、自分の進路を考えながら履修モデルに沿って総合心理学専門科目を履修します。総合心理学専門科目では下位区分として「認知・行動」「発達・キャリア」「社会・文化」を設け、心理学の専門分野を系統的に学びます。また「ヒューマンデータサイエンス」「実践」「特殊講義」では自分の目的に応じて研究力と実践的応用力を身に付けていきます。

認知・行動

知覚心理学や認知心理学、行動分析学、認知行動療法をはじめとする領域の専門的知識を学修します。実験的な手法を用いて、特に量的なデータを扱った研究ができる学生を育成します。

ヒューマンデータサイエンス

統計法やデータ解析などのデータサイエンス関連科目に加え、心を測定するための方法を体系的に学修します。研究から社会の現場まで幅広くデータを扱うことができる学生を育成します。

発達・キャリア

人間の生涯発達や組織行動、行動経済学をはじめとする領域の専門的知識を学修します。高度な統計手法や行動観察法を用いて、質的・量的なデータを扱った研究ができる学生を育成します。

実践

アクティブラーニングを主体として、課題を発見し解決する力、グレーブワーク、プレゼンテーションなどのスキルを学修します。総合心理学を実践的に生かすことができる学生を育成します。

社会・文化

コミュニティワーク、多文化コミュニケーション、法と倫理などの領域の専門的知識を学修します。フィールドワークや行動観察法、会話の分析などを用い、質的・量的なデータを扱った研究ができる学生を育成します。

特殊講義

国際的な心理学の実践や研究の中で使える英語運用能力の学修に加え、最先端の心理学に関するトピックスについて学修します。激しく変動するグローバル社会の中で活躍できる学生を育成します。

回 生	心理学を知る 1回生	基礎と応用を学ぶ 2回生	知識と実践を深める 3回生	研究をまとめる 4回生
学びの流れ				
基礎科目	外国語科目	英語S1 英語S2	英語P2 英語S3 英語S4	英語P4
総合心理学基礎科目	リテラシー入門 心理学入門 認知心理学概論 心理学概論 (知覚・認知心理学) Global Psychology (発達心理学) 社会心理学概論 (社会・集団・家庭心理学) 社会の中の心理学 Introduction to Psychology	心理学概論 (知覚・認知心理学) 医学総論 (人体の構造と機能 及び疾患)	4年間の学びの集大成として 「卒業研究」を実施。論文作成の過程や成果を発表する機会を通して、自身の考えをまとめ、情報を発信する実践的な技術を身に付けます。	
専門科目	認知行動 発達・キャリア 社会・文化 ヒューマンデータサイエンス 実践 特殊講義 卒業研究	思考心理学 神経・生理心理学 行動分析学 (学習・言語心理学) 心理的アセスメント Topics in Prevention and Crisis Intervention 精神疾患・その治療	認知科学 応用認知心理学 知覚心理学 応用行動分析学 (福祉心理学) 言語と心理学 精神疾患・その治療	障害者・障害児心理学
人間科学研究科		乳幼児心理学 児童・青年心理学 経済と人間 産業・組織心理学	教育・学校心理学 中高年心理学 心理学の支援法 組織と人間 行動経済論 心理療法各論I 心理療法各論II	キャリア形成論 Critical Issues in Psychology
		司法・犯罪心理学 コミュニケーション心理学 文化心理学 表現と心理学	家族と人間 政治と人間 メディア心理学 Diversity and Culture in Psychology	現代人間論 関係行政論 感情・人格心理学 健康・医療心理学 ジェンダー心理学 人間観の探求
		心理学統計法I 心理学統計法II 心理学研究法 コンピュータ・リテラシー	質的研究法 量的研究法 プログラミング入門	心理学データ解析法 心理学データ解析実践
		基礎演習I プロジェクト研究I 国際フィールドスタディ	実践演習I プロジェクト研究IV 心理学実践演習I	心理学統計法プラス 心理学データ解析実践
		実践	プロジェクト研究III 国内フィールドスタディ	実践演習II プロジェクト研究V 心理学実践演習II
		特殊講義	総合心理学特殊講義I 総合心理学特殊講義II 総合心理学特殊講義III New Ideas in Psychological Science	実践演習III プロジェクト研究VI 臨床・実践演習 (心理演習)
		卒業研究		実践演習IV プロジェクト研究VII 臨床・実践フィールドワーク(心理実習)

上記のカリキュラムは予定であり、変更となる場合があります。

学部の専門教育とは質的に異なる、幅広い分野の知識の修得を目指す科目を多数履修することができます。

科目についての詳細は [オンラインシラバス 立命館](#) 検索

外国語の選択

[必修] 英語

グローバル化が進んでいる心理学分野において、英語が国際レベルの研究活動、研究交流、研究の主要語であることから英語専修にしています。

学びの特色

実践的な学びを通じて、課題解決力を身に付ける

〈実践知教育〉アクティブラーニングで実践知を養う

学生自らが課題を発見し、研究を通じてその解決に取り組み、論文作成や発表・議論へつなげるプロジェクト型の学びを実施します。体系的なデータサイエンスの修得や、充実した環境を活用した研究の実践に加え、地域・企業・臨床現場と連携したフィールドワークを通じて、研究と現場を結びつける深い理解を伴う実践知を養います。



〈国際的な心理学教育〉英語運用能力を高めグローバルな視野を身に付ける

英語による専門科目を開講し、グローバルな心理学の知識に触れるとともに、国際交流を体験する機会を提供します。プロジェクト発信型英語プログラムでは、学生が興味を持つテーマについて、世界中から情報を収集し、リサーチやディスカッションを行った上で、その成果を英語で発信します。これらの国際的な心理学教育を通じて、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を磨き、グローバルな視野を養います。



〈心理臨床実践教育〉実践・実習を通じて心理学のスペシャリストを目指す

臨床心理学の基礎知識を学ぶとともに、実習を通じて対人援助の実践方法を学びます。具体的には、対人援助の領域で活躍されている方々との対話を通じて、臨床実践のあり方を学び、適性を知るとともに、カウンセリング面接・グループ面接・認知行動療法・家族療法などのロールプレイで具体的な技法や知識を学びます。

〈卒業研究〉体系的に学びを積み重ね、集大成として卒業研究に取り組む

学生は全員、自身の設定した研究テーマについて、担当教員の指導のもと論文型または探究型の卒業研究に取り組みます。卒業研究を通じて、知識・情報処理能力・論理的思考力・判断力・表現力を鍛え、それらを総合的に使うことができる能力を養います。

【2024年度卒業論文テーマ一覧（総合心理学部一部抜粋）】

- ・オンラインニュースに含まれる諸要因が読者評価に与える影響
—感情表現とコメント欄に着目して—
- ・セラピストの涙のプロセスに関する質的研究—対人プロセス想起法を用いて—
- ・現代日本の若者の恋愛観—ロマンティック・ラブ・イデオロギーが変化した後で—
- ・阪神・淡路大震災での死別経験者がPTG*を獲得するプロセス
- ・小・中学生期の家族内役割が青年期の過剰適応に与える影響
—居場所とセルフ・コンパッショնの調整効果に注目して—

- ・性犯罪被害の告発時期が被害者と加害者への態度に与える影響
- ・相互フィードバックがヴァイオリン演奏の技能に及ぼす影響
—技能向上を目指す奏者を支援する発話—
- ・問題状態ボトルネックにおける手がかり提示の効果：応答時間・精度・メンタルワークロードの測定
- ・両耳分離聴法の音楽聴取への応用検討

*PTG: 心的ストレス後成長

【2025年度 教員・研究テーマ一覧】

岩壁 茂	心理療法のプロセスと効果の研究、心理療法の統合、感情、臨床家の訓練と職業的成長 心理療法と文化・社会
宇都宮 博	青年期から成人期にかけての人格発達と家族・社会関係
大石 衡輔	言語を理解している間の脳活動についての研究
岡本 直子	音楽の効用を心理的介入で最大限に活かすための日米共同研究、芸術療法、TFT(思考場療法)の実践および研究
神島 裕子	社会正義論、道徳感情論
川野 健治	コミュニケーションスキルと予防・促進プログラムの開発と評価
北岡 明佳	錯視とだまし絵の実験心理学的研究
吉 洋汎	表現療法、こころのケアと文化、スクールカウンセリング
サトウ タツヤ	文化心理学、ものづくり質的研究、心理学史、復興／まちづくり心理学、メタバース不登校支援、宇宙心理学
佐藤 洋輔	LGBTQ+のウェルビーイング、偏見と差別、ポジティブ心理学に基づく予防的アプローチ
澤野 美智子	医療と家族に関する文化人類学
首藤 純介	こころの健康増進、依存症への支援、精神障害を持つ人の認知行動療法/臨床行動分析に基づく支援
鈴木 華章	多様性、メンタルヘルスとウェルビーイング、予防的支援、世界のメンタルヘルス
高橋 潔	AIを活用した心理ビジネス、リーダーシップ開発
高橋 実介	知覚、認識、行動、感性、およびその多様性に関する認知心理学研究
土田 宣明	実行機能とその加齢変化に関する実験的研究
實 雪	メディア心理学およびオンラインメディアの効果研究とその応用
永井 聖剛	社会的コミュニケーションと認知、動作および身体と認知、動的シーンの知覚
中鹿 直樹	行動分析学に基づいた障害のある個人のQOL向上のための援助
野田 実希	ナラティヴ・語り研究、職業人のメンタルヘルス、病いを抱える方への心理的支援、質的研究方法論
服部 雅史	推論・意思決定・問題解決・創造性・合理性の認知心理学
林 勇吾	人間の認知(言語・記憶・学習・問題解決・創造性)やコミュニケーション(協同問題解決・集団意思決定)に関する心理学研究、人工知能やヒューマニタリフェース・教育工学の支援技術の開発研究
増田 梨花	学校現場におけるピア・サポート、絵本と音楽を活用した臨床心理学的介入法
三田村 仰	カップルセラピー、親への移行期の夫婦支援、認知行動療法の文脈的アプローチ
宮口 幸治	発達障害・知的障害への包括的支援、非行臨床・精神医学など
村本 邦子	DV・虐待・性暴力など女性支援、災害・戦争など歴史のトラウマ、土地と文化に根差した土着心理学
村山 緹	対人過程・集団内過程・集団間過程に関する社会心理学的研究
森 知晴	行動経済学の応用(労働・教育・税金・保険・ギャンブル)
安田 裕子	生殖から始まるlifeサイクルにおける危機と回復のナラティヴ研究、質的研究法TEA、司法面接における心理臨床の役割
矢藤 優子	乳幼児と養育者の行動発達研究、科学的根拠に基づく育児支援システム構築のための総合調査と東アジア諸国間の比較研究
山本 博樹	意味理解を支援する説明の教育心理学
若林 宏輔	社会を規定する法の人間の問題に対して心理学的アプローチする研究

詳しくはこちら▶



学びの特色

全国有数の規模を持つ実験・実習施設とアクティブ・ラーニングを支える学習空間



■ 動物行動実験室

ハトを使った動物心理学の研究を通じ、人間と人間以外の動物の心の共通性などを探ります。



■ 脳機能画像分析装置

近赤外分光法を用いて脳活動を調べる装置です。fMRIよりも自由度の高い実験が可能です。



■ NAO (人型ロボット)

人間の知的な振る舞いをプログラミングすることで、人間の動きについて理解を深めます。



■ 面接実習室

カウンセリングの実習やインタビュー調査、また家庭セットによる心理療法の実習などを行います。



■ プレイルーム

おもちゃや砂場を配備し、主に子どもの心や行動を調べるための実験や観察を行います。



■ 生活行動実験室

キッチンや応接セットなどを配備し、日常生活における行動の特性や援助が必要な場面を探ります。

[大学院進学 一人間科学研究科]

社会の中に生きる心理学・人間科学の創造を通して、学術と社会の発展に貢献する人材を育成。

人間科学研究科は、基礎心理学から臨床心理、対人援助（福祉・教育・カウンセリングなど）まで幅広い研究領域を網羅する大学院として2018年に設置されました。全国随一の院生数と教員数を誇り、学術と実務の垣根を越えた、産学協同による研究と実践でさまざまな学びをサポートします。心の内だけでなく、人間を総合的に知るために分野を超えて学び、専門性をさらに深め、総合心理学部での学びをさらに発展させ追求していく環境が整っています。

特色ある多様な研究領域

人間科学に関する多様な研究により、院生が自らの学問的関心を中心に捉えて、さらに周辺領域へ融合・発展させることができるカリキュラムや研究機会を用意しています。

社会人院生在籍によるアカデミックとプロフェッショナルの融合

博士前期課程、後期課程ともに社会人院生が在籍し、実務からの課題解決研究とアカデミックな視点からの研究が並存し、学術界と実社会の融合を起こします。

国家資格『公認心理師』の認定プログラムに対応

医療保健領域から教育、福祉、産業、司法、被災者支援、社会福祉と幅広い領域における課題に対応する公認心理師。人間科学研究科では認定プログラムに対応するとともに、アカデミックな角度からのアプローチも行います。

【公認心理師に求められるもの】

- 公認心理師には、知識以外に技能・態度の修得が求められています—
- ▶心理検定、心理面接、地域援助、教育研究という従来の職務に加えて、状況を適切に把握し、事実を的確にアセスメントし即応した支援を行うことができる技能・態度
- ▶多次元にわたり、交錯する要因が関わる困難な問題の増加→多職種との共同体制
- ▶良いチームワークとフットワークの軽いアドバイザー

*公認心理師試験受験資格取得は、大学・大学院において省令で定める科目を履修し、卒業・修了する必要があります。

進路例

- 臨床心理士 ●産業カウンセラー ●スクールカウンセラー
- 警察官 ●司法 ●福祉
- 教育 ●医療 ●高齢者介護
- 障害者支援 ●看護師 ●保健師

卒業生からのメッセージ

心理学で一人ひとりの未来を支える

柔軟で思いやりのある家庭裁判所調査官に。

心理学を活かせる仕事として、家庭裁判所調査官を志望しました。現在は、2年間の養成課程の中の実務修習として、主に少年事件を担当しています。20歳未満の少年が関わる非行について、面接などの調査を通じ、非行に至った背景や再犯のリスクを分析して裁判官に報告する仕事です。人生の重要な局面にある少年や保護者と深く関わるため、やりがい以上に責任の大さを感じています。心の底にあるものを引き出すために、心理学の知識は不可欠ですが、大学での他者と協働した経験や、自分の考えを言語化する力が活かされていると思います。とりわけグループワークでの経験が、事件に関する同僚や上司との討議に役立っていると実感しています。今後の目標は、事件当事者に合わせて柔軟に対応できる調査官になることです。一人ひとりの背景に思いを巡らせつつ、伝え方や接し方に工夫を凝らしていきたいと考えています。

2020年、総合心理学部に入学。授業を通じて家庭裁判所調査官という仕事を知る。心理学を活かすことができ、人生の重要な局面にある子どもや家庭と深く関わる職業として魅力を感じ、採用試験を受ける。2024年、大阪家庭裁判所に家庭裁判所調査官補として採用される。今後は、離婚調停や成年後見などの家事事件などを担当する予定。



神鳥 仁郎さん

大阪家庭裁判所 調査官室
(総合心理学部 2024年卒業)

心理学の学びを通じて培った力を武器に 生成AI領域のソリューション営業に尽力する。

「誰もが自分らしく生きられる環境を自ら選び取れる仕組みを創る」。その実現のためVRやメタバースに携わりたいと考え、IT業界を志望しました。大学時代はゼミナール活動に力を入れ、卒業論文では「自分の声からVRアバターをつくれたら」という発想のもと、Classification Image法という手法を用いて「高音および低音からイメージされる顔の可視化」をテーマに研究しました。そのほかにも、認知心理学会のセミナー登壇やビジネスコンテスト、「国際社会で活躍する人材養成プログラム」への参加などを通じて、多様な経験を積むことができました。現在は生成AI領域のソリューション営業を担当しています。心理学の学びを通して培ったコミュニケーションに関する知識は、仕事にも活かされています。さらに営業力を磨き、将来は商品・サービス企画に挑戦することが目標です。



若本 夏実さん

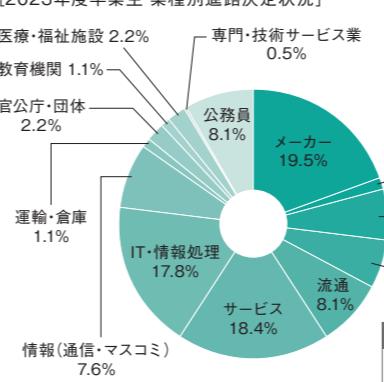
株式会社NTTデータ テクノロジーコンサルティング事業部
(総合心理学部 2024年卒業)

2020年、総合心理学部に入学。3回生の時に参加したインターンシップで、真面目さを尊重する風土があり、自分のやりたいことを実現できる会社だと感じたことから、2024年、株式会社NTTデータに入社。現在は生成AI領域のソリューション営業担当者として、社内情報から回答を生成するために必要な製品を担当。

進路・就職状況

「社会で生きる心理学」を身に付け、個性と多様性を尊重しつつ他者と協働し、問題解決に貢献する人材を養成します。

2023年度卒業生 業種別進路決定状況



2023年度卒業生 進路・就職先一例

あいおいニッセイ	(株)JTB
同和損害保険(株)	スマセイ情報システム(株)
(株)アイシン	【住友生命グループ】
アマゾンジャパン合同会社	住友生命保険相互会社
(株)エス・エム・エス	富士フイルムビジネス イノベーションジャパン(株)
(株)NTTデータグループ	ダイキン工業(株)
(株)NTTデータ	TDK(株)
(株)NTT DATA, Inc	東京海上日動火災保険(株)
(株)カブコン	(株)読売新聞東京本社
九州電力(株)	東京書籍(株)
TOTO(株)	(株)LIXIL
(株)近鉄百貨店	(株)りそなホールディングス
(株)ケーズホールディングス	(株)ワコール
ヨニカミノルタ(株)	裁判所職員総合職 (家庭裁判所調査官補)
日本電気(株)(NEC)	大阪市人事委員会
サイボウズ(株)	京都市役所

○円グラフの数値は小数点以下第二位を四捨五入により算出。○進学率=(進学者/(就職者+進学者))。ただし、進学者には大学院だけでなくその他の進学者を含む。○端数処理の関係で100%にならない場合があります。